

「[平病院](#)」は岡山県南東部の和気町に位置する 90 床（一般 32 床＝うち地域包括ケア 11 床、療養 30 床、結核 28 床）のケアミックス病院。講演した事務部長である高取敬修氏は、主に JHAstis の活用の場面、院内にもたらした影響などについて解説しました。



平病院事務部長の高取敬修氏

同院では、JHAstis を経営管理会議（月 1 回、部長以上）、部長会議（月 1 回、常勤医師、部長以上）、部署運営会議（月 1 回、各課所属長）など主要な会議で活用しています。主にベンチマーク分析の結果、自病院が現状、どのような立ち位置にあるのかなどを報告しています。例えば、他病院と比較して単価が低い場合は、どのようにして単価を増加させていけばいいのかなどが検討されていきます。

JHAstis の強みの 1 つである「加算の算定漏れ対策」にも活用しており、小林病院と同様の救急医療管理加算においては、分析の結果、算定漏れが生じていることが発覚。それを医師に報告し、今後、どうすれば算定漏れがないよう診療録に記載できるようになるのか、その記載方法について情報共有しました。

このように、分析レポートで課題が明確になり、他病院とのデータ比較、医師の記載漏れなどが分かってくると、院内全体に経営改善の意識が芽生えてきます。特に、役職者の経営に対する意識が大きく変化し、事務方への質問や提案も増えて、経営改善に対して積極的になってきました。

また、同院では医師を除く役職者の目標面談においても JHAstis を活用。具体的なデータを用いて、例えば、加算算定に重点を置いた目標設定などを行うことで、目標の明確化とその達成によるモチベーションの向上などに役立っているといます。さらに、分析業務にかかる時間の大幅削減にも寄与しています。これまでは、各種データを分析するとなると、データをエクセルにダウンロードして加工し、ズレや漏れを補完するというような作業が発生していました。それが JHAstis を用いることで、レセプトデータを送信するだけの処理で済むため、事務負担が飛躍的に減ります。また、改正個人情報保護法の施行で一部個人情報の匿名化などの加工も発生しますが、こうした手間も、JHAstis は同法に対応しているため、特別な対応をせずに済みます。